

# あまべ牡蠣のスマート養殖プロジェクト

<b>提案者</b>	株式会社リブル		
<b>実施地域</b>	徳島県海陽町	<b>分野別モデル</b>	スマート農業・林業・水産業
<b>事業概要</b>	牡蠣養殖へのICT活用により、遠隔で養殖場の環境情報を把握可能とすることで、省力化と安定した生育管理を実現する。また、収集したデータを分析することで、新規就業者や高齢漁業者でもオペレーションが可能な「勘と経験によらない養殖」を目指す。		

- 海陽町の主要産業は漁業(就業者の比率は全国比22倍)だが、**人口は1950年から半減／高齢化率42%**
- **地域を持続的に維持するには安定かつ効率的な漁業の実現が必要**  
⇒「**計画的に育てる漁業**」を目指し、**牡蠣養殖の事業化に取り組む**
- しかし、海陽町の澄んで綺麗な海洋環境では、一般的な「イカダ垂下方式」では牡蠣が上手く成熟しない  
⇒海の養分を効率的に吸収させる「**シングルシード生産方式\***」を採用することで**質の高い牡蠣の養殖に成功**  
※牡蠣をカゴに入れてバラバラに養殖する方式で、牡蠣同士がぶつかりあい、均一で身入りの良い牡蠣ができる



課題	具体策 ※小浜市「「鯖、復活」養殖効率化プロジェクト」の横展開モデル	解決法	目標
<p>この養殖方式は、<b>水温</b>や<b>天候に適した世話</b>が重要で、名人漁業者頼りで<b>事業拡大に限界</b></p> <p>牡蠣の生育に応じてカゴを振分けるため、<b>カゴ毎の状況把握が必要</b>で<b>管理に手間</b>がかかる</p> <p>牡蠣の生産性は、海外と比べてまだまだ低い (<b>出荷までに4割が死んでしまう</b>)</p>	<p>環境データを見える化するIoTセンサーの導入</p> <p>PCやスマホで環境・生育状況を共有できる仕組み</p> <p>作業と環境情報による生育状況の関係性分析</p>	<p>環境情報を正確に把握し、<b>全就労者が共通した基準で判断</b>できる</p> <p>管理方法の省力化、マニュアル化を行い、<b>生産性を向上</b>させる</p> <p>環境情報に基づいた<b>効率の良い生育ノウハウを確立</b>する</p>	<p><b>事業拡大</b> 5年間で 出荷量 <b>5倍</b> (令和6年30万個)</p> <p><b>作業時間</b> の削減 <b>188時/年</b></p>